

平成27年度（技術・家庭（家庭領域））授業改善推進プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・実技に重点を置いているため、理論的な裏付けをすることが不十分である。 ・授業で行った学習内容が日常生活の中でどれだけ改善されたのか把握しにくい。 ・作業全体を見通しての実施経験が少ないため、自分の作業へ自主的に取り組めず、出来ていないことに気づかなかったり、自信なく全ての指示を求める生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した理論の裏付けが出来るよう、実技とのバランス配分を改善していく。 ・年間を通じて実践レポートの提出を呼びかけ、生活の改善の行方を把握していく。 ・主体的に学習を進められるよう、授業の最初にその時間の課題を師範等で徹底するとともに各作業段階の見本等を多く用意し主体的にやる気を引き出すとともに細やかな段階毎にチェックや評価をし、励みとなるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を見直し、改善しているという課題を段階を追ってレベルアップさせながら年間を通して与えていく。 ・ホームプロジェクトなどを行い、課題発見→改善計画→実践といった課題を与えていく。 ・作業の進度に個人差があるので、やる気をなくさせないよう、時間毎の課題修了者には別のものを用意し、遅れた場合には補習を行い全員が毎時間新たな気持ちで取り組めるようにする。
第二学年			
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・保育領域の具体的な教材資料の種類が少ない。 ・将来自分の子どもや社会の一員として子どもの養育にあたる立場の生徒に現在までの自分を振り返り幼児期の大切さを実感させたいが、大きな視野で考えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR,DVD、模型などを活用し身近で、より具体的な教材の整備を行う。 ・実生活で幼児と触れ合うことが少なく関心も少ないため視聴覚教材や模型などを多く利用し、胎児から段階をおって振り返り学習をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞テレビなどの報道の中から今現在、子どもを取り巻く環境の問題点を取り上げ考えたりレポートにまとめることにより社会人としての自覚を持たせる。